2017 年度　事業報告書

「シマフクロウ学習」スライドより

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

2018 年 2 月 27 日

目次

はじめに

各事業報告
Ⅰ保護・保全・支援事業
１　シマフクロウに関する各調査、生息地パトロール
　1)　モニタリング調査、生息地パトロール
　2)　繁殖確認調査
　3)　生息確認調査
　4)　生息可能地の選定調査
２　補助給餌
３　生息環境の保全
４　その他

Ⅱ普及・啓発事業
　１　環境教育
　２　広報
　　1)対面による発信
　　2)ウェブサイト、SNS による発信
　　3)頒布品による発信
　　4)印刷媒体による発信
　　5)ファンドレイジングによる発信
　　6)メディアによる発信

はじめに

　シマフクロウ・エイドの活動は、現代表理事がシマフクロウの保護・調査に 1993 年から携わるなかで、次世代の担い手育成や関係地域への普及啓発がない状況下での保護活動の今後を危惧したことから始まりました。
地域で環境の包括的な保全が根付くことをもって、地域創生と野生生物保護の両立を目指し、2008 年、有志とＮＰＯ法人を設立。シマフクロウの保護・保全と普及・啓発を活動の柱とし現在の活動を展開するに至っています。
保護活動は、1984 年から国や研究者等によって始まり現在も継続中です。地道な活動の成果により個体数が漸増しましたが、生息地間が分断傾向なため、生息可能地も含めた保全が課題で、未だ絶滅危惧種のトップに指定されています。調査研究に携わる者の高齢化も深刻で、次世代の保護の担い手育成や普及・啓発の推進も課題です。
これを踏まえ、当ＮＰＯでは、関係地域への理解や協力を推進することに焦点を当て、基盤となる調査など保護保全の成果を、環境教育や広報に還元することで普及啓発を進め、地域創生とシマフクロウを含む生物多様性保全の両立を進めています。
この活動は、Think Globally Act Locally であり、他地域へ波及することによって、現在課題の生物多様性保全やシマフクロウの移動分散を助ける‘緑の回廊の復元’につながることを視野に入れて取り組んでいます。

本年の当活動の取り組み概要は、以下の通りです。

シマフクロウの保護・保全の重要基盤である調査や生息地パトロール、補助給餌においては、例年どおり引続き通年または適期に実施しました。成果をシマフクロウの保護保全に還元し、また今後の保護保全対策に向けたデータ蓄積を行いました。植林地メンテナンスはボランティアが参加し実施しました。

保護・保全の成果や課題を普及啓発の推進に還元している環境教育や広報においては、参加者の意欲の高まりが感じられる場面が各所で見られ、一定の成果が感じられる年となりました。
伝える機会を通じ、保護の現状や課題、ルールやマナー、生息環境の保全などについて、様々な立場の人と情報共有し理解を深める場を創出し、さらに自分ごと化を推進しました。

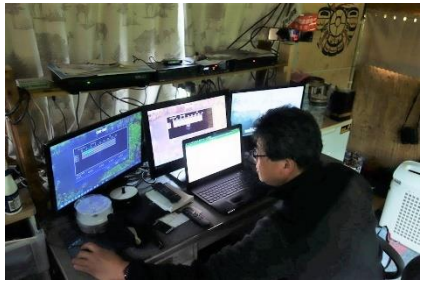
2017 年度事業報告

(2017 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

シマフクロウは生息地間が分断傾向のため、移動分散まで進むものの移動中の事故などで分散しにくく、雌雄が出会いにくい状況があります。そのため、生息地間の環境保全をはじめ関係地域等への普及啓発が課題となっています。

本年の当保護・保全事業は、この課題解決につながる補助給餌の利用実態を知るモニタリング調査を引き続き通年実施しました。また生息可能地の選定調査では新たな手法を取り入れて実施を試みました。

普及・啓発事業では、スライドトークや環境教育など対面的な方法とウェブサイトや SNS など間接的な方法で、関心層や関心はあるが日ごろ関わりが少なかった層にも保護・保全事業の成果や課題を共有する機会に参加してもらう流れが出来、課題の自分ごと化を推進しました。

事業名	実施場所・時期・人数	内　容
Ⅰ　保護・保全事業		
１.調査・生息地パトロール		
(1)モニタリング調査 (寄付：モニ調査応援隊寄付) (一部助成：ほっく一基金助成金)	釧路管内１か所 通年 実施者１名	昨年に引き続き、つがいの給餌池における採食状況や繁殖行動や他のワシ類の利用状況を把握するモニタリング調査を24時間動画記録方式で通年実施しデータを蓄積しました。  つがいが入れ替わり 2 年目の繁殖は産卵まで進むも未ふ化の結果でしたが引き続き調査を続行し、つがいのみの年の季節による滞在時間や体重変化等を記録・蓄積し、前年との比較等も行い、季節による利用状況の大きな違いや季節による一日の利用状況の違いなどを確認することが出来ました。 10 月の爆弾低気圧通過後、屋外機材 3/4 が故障する事態となり 12 月末までの期間は死角が発生する状況で調査を続行しました。
(２)生息地パトロール (寄付：守りたい寄付)	釧路管内１か所 4～12 月の 10 日 実施者１名	繁殖した 1 つがいの生息地パトロールを適期に 10 回実施。爆弾低気圧の影響で広葉樹や針葉樹の倒木が目立ち、またヒグマの出没は春から秋にかけて例年になく多い傾向だったため、踏査は例年より控え、センサーカメラ等を活用し幼鳥の生息状況の確認等を実施し、無事亜成鳥まで成長した様子を確認しました。

(2)繁殖確認調査 （ボランティアによる）	釧路管内 7か所 3月～5月の5日 実施者1名	昨年同様、今年度の数つがいの繁殖の有無を確認する調査を適期に実施しました。ヒグマの出没が非常に多い年で、何度かブラフチャージを受けながらの繁殖確認調査となりました。7か所中3つがいの繁殖成功を確認しました。環境省のバンディング調査に協力し、成果を還元しました。
(3)生息確認調査 （助成：はまなか農地水管理保全交付金） （助成：一般財団法人せせらぎ財団）	釧路管内1か所 1月～12月 実施者のべ2名	釧路管内で昭和40年代に初頭の農地改革開始当時、シマフクロウの生息情報があった河川周辺において、昨年個体の確認をされた住民へその後の生息情報のヒアリングを行ったところ、9月に鳴き声を聞いた模様。周辺の流域から移動分散してくる単独個体の立ち寄りが予想され、周辺河川で無人録音による生息確認調査を実施しました。その他昨年目視で生息確認の情報があった場所周辺においても同様の調査を計 17 日実施しましたが、本年は個体の生息を確定できるデータは得られませんでした。 （写真：住民より確認・撮影されたシマフクロウ）
(4)生息可能地の選定調査 （助成：一般財団法人せせらぎ財団） （助成：サントリー世界愛鳥基金）	釧路管内 1月～3月の6日 実施者1名 4月～12月 （月2～4日） 実施者2名	移動分散後の若鳥の事故などを減らし定住を促進するため、若鳥の生息可能地の選定調査を実施しました。1月～3月までは昨年生息確認情報があった周辺にて無人カメラや録音による調査を引き続き実施し、4月からは今回初めて小型航空機ドローンを取り入れ、徒歩では確認しづらい地形や、新たな場所における調査の時短に取り組みました。しかし10月、水鳥の衝突により墜落破損となり、従来通りの踏査に切り替えることになりました。範囲が広大な上ヒグマの出没が多い年のため、年内には生息可能地の選定までは至らず、来春まで調査を継続して実施します。

２．補助給餌 (寄付：おさかな寄付)	釧路管内１か所 年６回 実施者２名	シマフクロウへの繁殖を支援する補助給餌として、個人法人 68 件のおさかな寄付を受け、活魚を計 6 回 220kg 購入し専用給餌池に適期に放流しました。 12 月からは魚を補食するワシ対策として防御ネットを日中設置し日の出日没時にネットの開け閉め作業を毎日実施継続中。法人設立の 2008 年から 2017 年 12 月までの給餌量は計 74 回 2160kg となり、巣立ったヒナは 10 数羽になりました。
３．生息環境の保全 (1)植林地メンテナンス (助成：はまなか農地水管理保全交付金)	釧路管内１か所 6 月～11 月の 5 日 実施者７名	シマフクロウの将来の生息地づくりに向け、根付く広葉樹の植林を 2013 年から検証しています。本年は、草刈、冬越し作業などをサポーターや地域住民向けの支援活動としてのべ７名が参加し 5 日実施。電気柵の整備はスタッフが定期的に点検を行いました。植樹から 4 年が経過し、今年は特に枝葉の成長が著しく、周辺の葦などを超えるまでに成長しました。電気柵の効果は良好でシカの食害防止に効果を発揮しています。
(2)共通認識を持つ他の環境団体等との保護・保全活動の協働に向けた取り組み	釧路管内浜中町 11 月　7 団体 2 名中 2 団体 2 名実施 残りの団体は翌年実施予定　　実施者１名	シマフクロウの暮らしやすさをテーマとした地域主体の環境保全の取り組みとの融合を探るため、浜中町内の関係団体等が 20 年以上にわたりそれぞれ実施してきた地域の環境保全に質する取組みについて、その実施状況や現在の課題などを正しく知るため対面でヒアリングを実施しました。
４．その他	釧路管内 6～8 月 12 月～3 月 実施者３名 7 月　4 名 実施者１名	給餌池の補修や草刈り等をサポーター向けの支援活動として企画しましが定員に達さずスタッフのみで実施しました。 昨年同様、釧路総合振興局森林室の施業にあたり、シマフクロウの繁殖へ配慮いただくため事前協議を行いました。

Ⅱ　普及啓発事業		
１．環境教育 （後援：浜中町教育委員会） （一部助成：はまなか農地水管理保全交付金） （寄付：キッズ寄付）	浜中町 9 月　参加者 13 名、 11 月　参加者 24 名 実施者のべ 3 名	シマフクロウをテーマの環境教育「シマフクロウ学習」を浜中町内小学校 2 校で実施し計 37 名が参加しました。シマフクロウをテーマに自分と身近な生き物のつながりや、シマフクロウ保護が地域にもたらす効果や価値について、ゲームやスライド、体験を屋内外で実感してもらいました。 実施 5 年目の学校では、この学習を通して身近な自然の再認識と、子どもたちの守ろうとする気持ちが高まるきっかけになっていることがアンケートからわかりました。12 月、国連生物多様性の 10 年日本委員会の「生物多様性アクション大賞 2017」のふれよう部門でこの学習が入賞しました。
２．広報		
（1）対面による発信 ・スライドトーク開催 （後援：浜中町教育委員会） （一部助成：ほっく一基金） ・チャリティイベントへ参加	1 月厚岸町 釧路総合振興局厚岸森づくりセンター職員研修 28 名 4 月東京都 参加者 40 名 5 月浜中町（他団体主催活動報告会にて） 参加者 22 名 9 月札幌市 参加者 30 名 10 月浜中町 参加者 14 名	北海道の生態系の頂点であるシマフクロウの日常を保護調査員が動画で紹介する「スライドトーク」を町内外 4 箇所で開催し計 112 名が参加。 5 月、浜中町の NPO 法人えんの森様主催の「川と森がつなぐもの」3 者報告会にて登壇。魚類調査報告、住民の環境意識調査報告、当 NPO からは生息調査報告を行い、町農林課、酪農家の皆様等が参加し、質疑も活発に行われました。 9 月、WhyNotClub…様主催で第 4 回シマフクロウエイドチャリティイベントを鶴居村で開催いただきました。浜中町のミュージシャン藤本様の演奏や、フリーマーケット、ランチなど和やかな場で来場者に当活

	9月鶴居村(他団体主催チャリティイベント)　43名 参加者計177名 実施者のべ8名	動を紹介し収益を当保護活動へ寄付頂きました。 1月から10月までの6会場にて、保護の現状や課題の共有、ルール・マナー、当取組みなどについて、様々な立場の方々にお伝えし、生息環境の保全に向けた、人づくりを促進しました。
（2）ウェブサイト、ＳＮＳによる発信	通年 実施者のべ15名	ウェブサイトを3月にリニューアル公開しました。専門家を交え第三者目線で前年度からウェブサイトのリニューアルに取り組み本年3月に公開。その後、英語ページ制作も進め 12 月に公開。近年増え続ける訪日外国人旅行客へのルール・マナー向上、新たな理解者増につなげます。
（3）頒布品による発信		関心層を広げる頒布品を制作できる予定でしたが、保護保全事業における調査機材メンテナンス代や事務局運営に欠かせないパソコン買替えなど予定外の出費が重なったため、制作は中止とし次回先送りとしました。
（4）印刷物による発信 ・団体パンフレット制作 （助成：北海道新野生生物基金） ・会報の制作・発送 （寄付：ささえたい寄付）	9月～2018年1月 実施者2名 全国 隔月 162名 実施者3名	当活動を伝えたい対象に分かりやすく丁寧に伝える団体パンフレットとして、地域向けと圏外向けの2種を助成金で制作しました。 サポーター向けに会報を隔月で作成し 90 号まで発行。調査など「守る取り組み」や環境教育など「伝える取り組み」の成果や課題、子どもたちやイベント参加者様の感想、アンケート結果などを出来るだけ紹介し、会報を介して全国のサポーターの皆様と共有し、保護の意義や関心を一層深められるよう努めました。
（5）ファンドレイジングによる発信	通年、イベント時等 実施者のべ11名 1～4月、5～8月、9～12月	ウェブサイトやＳＮＳ、スライドトークなど普及・啓発事業の各場面で、活動への寄付金募集を行いました。募集目的の延長にある課題についても広報し、広く個人・法人等に向けて考える機会を作り、長年の課題であるルール・マナーの向上を推進しました。モニタリング調査継続のためのモニ調査応援隊寄付も募集し、16個人2法人からのご寄付を調査機材費及びメンテナンス費、労務費等に充当しました。
（6）メディアによる発信	7月、8月	北海道新聞、釧路新聞

2017 年度ご支援 （順不同・敬称略）

2017 年度　ご寄付(法人・団体)

アドニス・インタナショナル株式会社
株式会社 gooddo
公益財団法人知床財団
公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部
認定 NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト
WHY NOT..Club
古本募金ハピぼん
株式会社アトリエ・モリヒコ
TechSoup Japan

2017 年度　ご寄付(個人)：39 名

2017 年度　ご後援

浜中町教育委員会
ＮＰＯ法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」

2017 年度　ご助成

サントリー世界愛鳥基金
北海道新聞野生生物基金
一般財団法人せせらぎ財団
ほっくー基金
越智基金 市民活動支援基金
はまなか農地水管理保全協議会

2017 年度　技術支援

浜中町、有限会社石橋組（冬季除雪）

ウェブサイト英語化プロジェクトチーム、アクセルデザイン、株式会社マミコ社
(ウェブサイト英語ページ制作)

2017 年度　モニ調査応援隊寄付を頂いた個人・団体様：16 個人 1 団体

フルタカズヒコ、コマツヒロト、ササヤママナブ、フジワラマサキ、コンドウヒロシ、イノウエアヤノ、スズキヤスオ、トクメイ、スズキリツコ、コバヤシサチコ、オオハシアケミ、コンドウヒロシ、カワムラダイマ・バードドネイト、イタマナミ、コイケマサヒロ、オオタケマサノリ、カドタセイジ

団体概要

組織名称

団体名称：特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

設立　　：2008 年 6 月

役員

代表理事	菅野正巳	環境省委託シマフクロウ保護調査員
副理事	金澤裕司	羅臼町教育委員会　自然環境教育主幹
理　事	不破理江	ロシア語通訳
理　事	佐藤文男	(公財)山階鳥類研究所　保全研究室主任・研究員
理　事	武士聡	民宿 霧多布里　代表
理　事	松岡慶太	株式会社 Grateful Farm　代表取締役
監　事	山﨑貞夫	山﨑林業(株)代表取締役

社員

川村義春　浜中町議会議員
関上伸一　関上商店　代表
吉田俊彦　NPO 法人バーブレスフック普及協会事務局長
菅野直子　NPO 法人シマフクロウ・エイド事務局長

第 11 回通常総会開催 2018 年 2 月 27 日現在

沿革

2008 年　NPO 法人シマフクロウ・エイド設立
釧路管内の 2 エリアでつがいのモニタリング、繁殖確認調査、生息確認調査実施。以後継続。
おさかな寄付で 1 給餌池に補助給餌に携わるようになる。以後通年継続。
釧路管内で観察をしていた 1 個体のつがい形成を確認。
寄付・会員の募集開始。会報「コタンコルカムイ」発行開始。
ブログ「カムイの森だより」開始。
講演会「教えて！シマフクロウ」、保護調査員養成セミナー開催。
環境教育「シマフクロウ博士になろう！」開催。共催：霧多布湿原センター
エコツアー募集開始(会員限定)。

2009 年　地元造船所と共同で巣箱を作成し、環境省の巣箱かけ事業にて釧路管内山林に設置。
保護調査員養成セミナー開催。
講演会「教えて！シマフクロウ・住まい編」開催。
環境教育「調査体験・バンディング！」開催。共催：霧多布湿原センター。

2010 年　「浜中シンポジウム・海の生物多様性を考える」パネル出展。

2011 年　「北海道新聞 北のみらい奨励賞」受賞。北海道新聞社
公益財団法人日本野鳥の会主催の調査に協力
「活動パネル展」開催(2011-2013 年。2014 年 2015 年はイベント内開催)
環境省主催「シマフクロウの現状と保護の取組み講演会」パネル出展。
帝京科学大学にて当活動について講演。

2012 年　フェイスブックで広報開始。
釧路管内 1 エリアで新たなつがいを発見。

2013 年　釧路管内で観察をしていた 1 個体のつがい形成を確認。
出前授業「シマフクロウ学習」実施開始。以後毎年実施。
スライド・トーク「地域で守るシマフクロウ in 東京」開催、以後毎年開催。
将来の生息地作りを検証する植林を実施、定期メンテナンスを継続。
行政、NGO、公益財団、自治体より講演講師受託。
活動パネル展開催。参加型展示・大型パネル絵本を新たに組入れ。

2014 年　調査の深化と教育への活用を目的に、観察小屋を建設。
JICA より希少野生生物保護をテーマに講師受託。
釧路地区地域子ども育成指導者研究協議会より講師受託。
浜中町内イベントにパネル出展。
エコツアー：一時終了。

2015 年　観察小屋での調査整備作業、モニタリング調査試運転開始。
浜中町内イベントにパネル出展。親子向け参加体験プログラム実施。
「スライド・トーク in 浜中、in 東京」開催。

2016 年　24 時間動画によるペアのモニタリング調査開始。以後継続中。
「活動報告会 in 浜中、in 東京、in 札幌」」開催。
ウェブサイトリニューアル。

2017 年　「生物多様性アクション大賞 2017」入賞。国連生物多様性の 10 年日本委員
ウェブサイト英語ページ制作、公開。
「スライドトーク in 浜中、in 東京、in 札幌」開催。
団体パンフレット制作。

ＮＰＯ法人シマフクロウ・エイド
〒088-1364　北海道厚岸郡浜中町茶内若葉 2-36
電話・ファックス：0153-65-2183
Email:office@fishowlaid.jp　URL:https://fishowlaid.jp/